

土木学会四国支部「土木紀行」No.22(徳島)

ドイツ橋 ～友好の架け橋～



写真-1 ドイツ橋



写真-2 大麻比古神社大鳥居

ドイツ橋は、徳島県鳴門市にある大麻比古（おおあさひこ）神社の境内奥、板東谷川に架けられた全長9.0m（アーチ部径間1.6m）、幅2.1m、高さ3.2mほどの石造のアーチ橋です。使われている石材は75m³、重さになおすと195tに及びます。その名が示すように、ドイツ人の手によって架けられた石橋で、当時は同じような橋が10本あったとされています。しかしながら、現存する橋はドイツ橋を含めてわずか2本しかありません。現在は保存のために通行することはできませんが、周辺は遊歩道のようになっています。平成16年には徳島県指定の史跡に選ばれました。

ドイツ橋が築造されたのは1919年（大正8年）、第一次世界大戦が終結した年でもあります。当時この地には板東俘虜収容所があり、中国青島の戦いで捕虜となったドイツ兵953名が収容されていました。この収容所は日本で最も有名な俘虜収容所であると言っても過言ではなく、捕虜に対する公正で人道的かつ寛大で友好的な措置を行ったことで知られていま



写真-3 再現された板東俘虜収容所

す。収容所内には、レストラン・印刷所・図書館・音楽堂・商店街などの施設があり、地域住民との交流も積極的に行われた結果、文化的、学問的、さらには食文化に至るまであらゆる分野で両国の親交を促したとも評価されています。板東俘虜収容所はその有名なベートーヴェンの交響曲第9番が日本で初めて演奏された場所としても知られており、この話は『バルトの楽園』として映画化されました。

ドイツ橋もそうした文化交流のなか、ドイツ人捕虜の手によって築造されることとなりました。石積みのアーチ橋からは当時のドイツの土木技術がかなり高い水準であったことを図り知ることができます。ドイツ橋は文字通り、日本とドイツの友好の架け橋となっています。

大麻比古神社の境内には池があり、そこには「めがね橋」という、ドイツ橋とともに現存するもう一つの石橋もあります。現在では池ごと整備されて「心願の鏡池」と呼ばれるようになっています。他にも、板東俘虜収容所の跡地にある「ドイツ村公園」やドイツ橋とともに『とくしま 88 景』に選ばれている「ドイツ館」、映画の舞台となった「BANDO ロケ村」など、この地には当時のドイツ人の生活や地元の人々との交流の様子を垣間見ることができる場所が数多くあります。みなさんもぜひ徳島に足を運んで、当時の歴史や文化に触れてみてはいかがでしょうか。

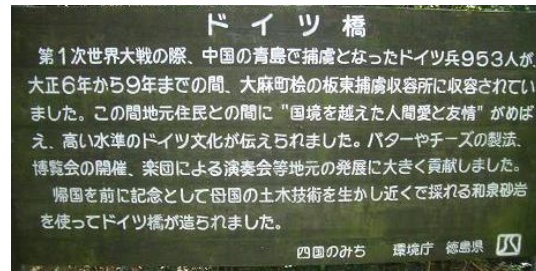


写真-4 ドイツ橋案内看板



写真-5 めがね橋



写真-6 ドイツ村公園



写真-7 ドイツ館



写真-8 BANDO ロケ村

写真撮影：著者